



加島五千石総鎮守 米之宮浅間神社

社報

令和6年
夏号

7月1日発行



『行事のご案内』 夏越の大祓式

斎行日・六月三十日（日）十四時より

※当日都合のつかない方は人形
(ひとかた)祓いをお受け下さい

茅の輪くぐり

七月十五日より八月十五日まで

※短冊に願い事をご記入下さい



神宮式年遷宮へ向けて

目にまぶしい木々の緑と強い日差しが、夏の到来を感じさせます。四季折々、めぐる季節の中で毎年、神社のお祭りは行われますが、中には、式年という一定の年を定め、続けられてきたお祭りもあります。「お伊勢さま」「大神宮さま」として多くの国民に親しまれる伊勢の神宮では、二十年に一度、式年遷宮というお祭りが行われます。このお祭りでは、御社殿を新たに造り替え、神さまに奉納する御宝もすべて新調します。そして、神さまに新宮へお遷り戴く遷宮が行われるのであります。

伊勢の神宮は、皇室の御祖先の神、また私たち国民の大御祖神として崇敬を集める天照大御神を奉斎しています。神社の場合、寺院などにみられるような本山末寺といった上下の地位を表す関係はありませんが、天照大御神をお祀りする神宮は、全国に約八万社ある神社の中でもその根本となるお社で、古来、格別な御存在として仰がれてきました。

第六十三回神宮式年遷宮は、令和六年四月八日に天皇陛下の御聽許を拝して、いよいよ準備が始まられました。これから、令和十五年に神さまが新宮に遷られる「遷御」を迎えるまで、およそ三十の祭典や行事が八年間にわたり行われます。皆さんも、二十年に一度のこの機会に、ご奉賛や行事への参加を通じて、神宮式年遷宮を拝し、その伝統に触れてみてはいかがでしょうか。

神輿について

神輿とは、神靈を奉安する輿のことをいいます。全国の神社では、多くの祭礼が行われております。その中でも神輿の渡御は、担ぎ手はもとより、大勢の見物人までが一体となる重要な神事です。奈良時代には既に神輿が作られていました。記録もあり、室町時代では、各地で神輿が担がれていたと言われています。

神輿を担ぐことで、神と人はもちろんのこと、人と人の関係を結び付けることにもなるのです。



神輿についで
神輿とは、神靈を奉安する輿のこと。神輿は、一般的にツバキ科の常緑樹のこと。古くは、常緑樹の総称としてその名前は使われていました。常緑樹は、冬でも青々とした葉が生い茂っているため、生命力の象徴、生気が宿るものとして考えられ、神事においても玉串として神前にお供えされたり、お祓いに使用されたりしています。記紀神話にも神事に神輿を用いたことが記されています。



直会とは

直会とは、お祭りの終了後に神前に供えた御饌御酒を、神職をはじめ参列者の方々で戴くことをいいます。お供えして神さまが召し上がる食物を人々が戴くことで神さまの恩恵を受けることが出来ると古くから考えられてきました。直会では御神酒を戴くことが一般的ですが、御神酒は米から作られる品目であることから特に重要視され簡略化された直会では御神酒のみを戴きます。



表書き

神前にお金やお酒などをお供えする際に記す表書きは、「御神前」「御供」「玉串料」「御榊料」「初穂料」などが一般的です。御神前・御供という表書きは説明するまでもありませんが、玉串料・御榊料とは玉串や榊の代わりに、また初穂料とはその年に初めて収穫されたお米の代わりに、それぞれお供えする料であることを意味しています。このほか、「上」「奉獻」「奉納」と書く場合もあります。上はよく神様や日上の方に対する御礼の際の表書きに用いられる語です。

神前にお金やお酒などをお供えする際に記す表書きは、「御神前」「御供」「玉串料」「御榊料」「初穂料」などが一般的です。御神前・御供とい

連絡先

米之宮浅間神社
社務所

〒四一六一〇九〇六

静岡県富士市本市場五八二

五〇五四五(六一)〇八一七
五〇五四五(六一)〇八一九

詳しくは
こちらから



神社や神道について詳しくはこちらのQRからご覧ください。

